

赤坂清和・齋藤昭彦(監訳)

「メイトランド脊椎マニピュレーション 原著第 7 版」

柳澤 健
(首都大学東京)

今年 84 歳を迎えた Maitland の名著「Maitland's Vertebral Manipulation, Seventh Edition」が翻訳された。豪州の理学療法士である Maitland を含めた 4 名による編集であり、初版は 1964 年であった。第 7 版では CD-ROM が加わり、イラストや写真の不明瞭な箇所を動的に補って極めてわかりやすく編集されている。本書は 13 名の理学療法士による分担翻訳であるが、赤坂・齋藤両教授によって用語などが見事に統一されていて、わかりやすい文章に仕上がっている。

本邦の理学療法界では、モビライゼーションは一般化された用語であるが、マニピュレーションとモビライゼーションの相違が不明瞭なことが多い。両者はいずれも他動運動である。マニピュレーションは広義では神経筋骨格障害に対するあらゆる他動運動手技を含

めた一般的用語であり、狭義では小さな可動域で施行される小振幅の素早い他動運動である。モビライゼーションは他動振幅運動(全可動域の任意の部位で施行)と持続的伸張(最終可動域での小振幅運動)に分けられる。

本書は、冒頭に頻繁に使用される用語の解説を置き、本文は、コミュニケーション、評価、予後予測、検査、手技の原則、手技の選択、手技の適用、頸椎、胸椎、腰椎、仙腸関節領域、仙尾骨・尾骨間の領域、ケーススタディなどの章から構成されている。付録に「動物に対する理学療法(モビライゼーション)」が 6 頁ほど掲載されていたのは驚きに値する。

これからの理学療法は、“正しい他動運動”を十分に理解してから実施すべきであると本書は伝えているように思える。ベテラン・中堅の理学療法士だけでなく新人理学療法士・学生にとって座右の書となることは間違いないであろう。

●B5 変形判 492 頁

定価 10,290 円(9,800 円+税 5%)

2008 年 エルゼビア・ジャパン社・刊